

## 米軍無人機 MQ-9 の一時展開に関する住民説明会概要

開催日時	令和4年6月4日(土) 18時30分～21時05分
開催場所	中央公民館
出席者	市内：60人、市外：2人 ※報道関係者除く
質疑応答の概要	<p>○ 同時に複数機をコントロールすることはないのか。 → 同時にコントロールすることは可能であり、実際にそのようにコントロールする。情報収集に向かう機体、情報収集を行っている機体、情報収集から戻る機体、整備をする機体など、複数機で同時に回していくイメージ。</p> <p>○ 高隈山に新しく建てられた建物と今回の件との関係は。 → 関係ない。MQ-9に関して高隈山に何かを設置したということは一切ない。</p> <p>○ 鹿屋市に150～200人来るとなるとコロナが心配。自衛隊敷地内に宿泊することはできないのか。また、MQ-9はこれまで事故をしたことがないというが、それは何年間の運用の中での話か。 → 全ての米兵が自衛隊敷地内に宿泊することは難しい。コロナ対策については、出国前にPCR検査を受ける、ワクチンの3回目接種をするなど対策を講じる。また、MQ-9は2001年から運用されている。その中で事故がまったくなかったというわけではなく、安全を確保する体制の強化、改善をしっかりとってきているということを示し上げた。</p> <p>○ 鹿児島県にはレーダー基地があるがこれでは対応できないのか。 → レーダーはあくまでも上空を見るためのものであり、MQ-9は海の上を見るため目的が異なる。</p> <p>○ MQ-9は攻撃力の高い兵器である。世界中で武器はどんどん発達し、戦争準備だけがどんどん進んでいるように感じる。政治家は誰も平和交渉を行っていないではないか。平和外交を進めなければいけない。また、近年市内にホテルが増えたのは、MQ-9のためのものだったのではないか。 → ホテルの増加が今回のMQ-9の一時展開のためということは一切ない。 外交的な努力がうまくいかなかったとき、今回のようにウクライナの地で戦争が起こっていることは残念ながら事実である。そのようなことが断じてないようにすることが政府または防衛省の務めであると思っている。</p> <p>○ MQ-9はどこで操作するのか。鹿屋の基地なのか。遠隔操作ということだが、墜落の危険度が高いのではないか。墜落や不時着が起こった場合、日常生活への影響は多大だと考えるが安全策は。 → 離発着時は鹿屋航空基地に所在するパイロットが地上から操縦し、一定の距離で衛星通信に切り替え、国外の米軍のパイロットが引き継ぐ。アメリカは様々な無人機を衛星通信で操縦しており、有人の飛行機と同じレベルの安全性が十分確保できている。</p> <p>○ 万が一のための日本とアメリカが共同作戦をするための前線になるのでは → 今回のMQ-9の展開に伴う共同使用の手続きは行うことになると思うが、あくまで一時展開のためだけ。戦争の準備をしているというものではない。一時展開以外の計画は一切ないと明確に申し上げる。また、MQ-9による情報収集はアメリカのためではなく日本の安全保障のために必要である。</p> <p>○ 航空経路はどのようになっているか。また、市内のホテルに宿泊することは鹿屋</p>

市が了承したのか。

→ 航空路については国土交通省と調整しているが、旅客機と同じように航空管制の指示に従うほか、他の航空機に対して飛行する時間帯や場所等の必要な情報を航空情報として提供することとなる。また、ホテルの利用については鹿屋市に説明・相談している段階。

○ 米軍の200名の延べ人数は。交付金はあるのか。ホテル宿泊等の経費は思いやり予算か。5か所で説明をしているが他の地域ではないのか。

→ 150名から200名のメンバーが1年間にわたり滞在し、運用を行う。多少の出入りはあろうが、基本的には同じメンバーが滞在する。

ホテル宿泊等の経費は米側が自らの予算で支出するもので日本が出すわけではない。ホテルのみならず、装備の輸送費や活動費等の経費も米側が自分たちの予算で支払う。防衛省や自衛隊がその経費を負担するものではない。

交付金は、基地の使用方法に応じて調整されるので、現段階で金額はお答えできない。

今回の説明会は市の取り計らいでこのような形で開催した。今後ご理解いただけるように努めていきたい。

○ トラブルがあったときの、「日米地位協定の18条に基づき適切に対応」とはどういうことか。

→ 基本的に九州防衛局が窓口となる。

公務上で米側が事故を起こした場合、事故が発生したら九州防衛局の職員が被害者の方から話を聞き、書類を作成してもらい、九州防衛局に請求書を出してもらう。そのあと、米国政府と協議して賠償金額が決まると九州防衛局から被害者の方へ支払う。公務外の場合は、まず加害者と被害者の間で示談交渉し、示談が成立しなければ公務上の場合と同様に、請求書を九州防衛局に出してもらい、米国政府から直接支払うという流れ。

○ 対中国のために本当に必要なのはアメリカなのか？日本にはレーダーもあるし哨戒機もある。MQ-9は必要なのか。

→ 自衛隊の哨戒機も情報収集に当たっているが、周辺国の軍艦の数が急激に増えるなど、監視の対象は増えている。情報収集能力を強化しなければならない。アメリカのためではなく、日本自身の安全保障のため。

○ 鹿屋基地は日本の防衛の重要な拠点であり、重要な役割を果たさなければいけない。基地周辺の社会インフラを整備するなど防衛計画をしっかりと進めていただきたい。

○ 一時展開は7月から確実に始まるのか。

→ 市や市民にご理解いただいでできるだけ早くと思っている。

○ 無人機の運用を米軍ではなく自衛隊ですることはできないのか。

→ 自衛隊としての情報収集能力の底上げをしないといけない中で、無人機について、アメリカに依存するだけでなく、自衛隊独自の運用についても検討を進めている。その意味で、今回の一時展開は米軍から学ぶ意味でも重要だと考える。

○ 事故が年間4.9回ということは3か月に1回事故が起こること。鹿屋基地周辺には学校が多いから落下物とかが心配。

→ 事故率は2010年から2021年の10年間で49回という数字があり、年間4.9回と示したものの。一方で、一般に事故の中には例えば駐機している飛行機に自動車があぶ

	<p>つかったようなものも含まれる。また、4.9回というのは、全世界に展開するすべての機体の事故の平均であり、今回の一時展開で鹿屋においてこれだけの重大事故が発生すると見るべきではないと考える。</p>
--	---